

第6回大野市文化会館あり方検討委員会 議事録

日時：令和7年1月8日（水）19時00分～21時30分

場所：結とぴあ3階 305・306号室

1 開会

2 委員長あいさつ

今日は報告書の確認がベースになると思うが、途中で自由に意見を言っていただくような場も作りたいと思うので、皆さんよろしくお願ひしたい。

3 議事

協議事項

- ・文化会館あり方検討報告書案について

【事務局より「大野市文化会館あり方検討報告書（案）」の説明】

（質疑応答）

委員長：事務局から説明があった文化会館あり方検討報告書（案）について協議していきたい。目次1から一つずつ確認していく形で進めていきたい。まず、「1 はじめに」について何か意見、修正すべき点はないか。

委員：平成31年度当初予算が認められなかったということをもっと詳しく書いてほしい。平成31年2月にパブリックコメントまでしたが、できなかったというのは、市民の感覚からすると議会からの説明がなかったように感じる。いきなり否決としたのか、もう一度議会とすり合わせして、なぜ承認を得られなかったのかを書いてほしい。

事務局：報告書に記載のとおり、平成31年3月の議会で設計委託料は認められず、事業費とランニングコストをもっと抑えるようにと言われた。当時の議会の委員会でやりとりをしているが、最終的に令和2年6月の総務文教常任委員会委員長報告で、「コロナ禍の影響により急激な歳入減少が予測される中において、コロナ禍がある程度収まるまでは、財政調整基金を備えるためにも、経費削減に向けて計画を見直すなどと新たな提案がなければ、基本設計に係る委託料の執行について委員会としては承認することはできない」という報告があり、しばらく何もできなかったという状況である。更に細かく記載が必要か。

委員：打合せをできなかったのか、しなかったのかということである。

事務局：当時の議会の委員会で、特別に5回開いている記録は確認している。

委員長：例えば、「詳細に検討したけれども、承認を得ることができなかった」というような追記をするか、このままの記載でいくのかということによいか。

事務局：平成31年3月議会で設計委託料の承認を得られなかった後、令和元年6月から令和2年3月までに、当時の総務文教常任委員会とは委員会協議会が別であり、合計で5回説明させていただいたが、ここに書いてあるとおり、令和2年6月に委員長報告が出たということである。

副委員長：自分は当時の総務文教常任委員会も本会議も傍聴しており、自分の認識では当初予算は通ったと思っている。当初予算が通ったということは、この7千万円は議会で認められたということである。ところが、執行は総務文教常任委員会の承認を得て執行することという但し書きがあった。書き方としては、細かく書くというのは違うのではないかと思う。だから、市長がやると言えばやれたが、そこは議会を優先して執行しなかったという流れかと思う。それが今までずっと続き執行できずにおり、国の補助金をもらうためには令和5年、6年までに事業を完了しないと補助金がでないという締め切りがあったので、令和2年6月にそういう判断をせざるを得なかったというのが現状だと思う。議会で承認を得ることができなかったという書き方は違うのではないかと思う。

事務局：記載の仕方については、ご提案いただいた意見も踏まえ、議会にも確認し、適切な書き方がこれ以上にあれば、修正させていただきたい。その際には、委員長にも確認させていただきたい。

委員長：「1 はじめに」については、認めていただいたと判断したい。次に、2ページ目の「2 文化会館のあり方検討のための基本的な考え方」についてご意見をお願いしたい。

委員：このとおりに実行できればいいなと思った案がここに記載されている。いいことが書いてある。もっと太文字にしてもらって結構である。第1回委員会で皆が納得して始まったので、この内容で結構である。

委員長：「2 文化会館のあり方検討のための基本的な考え方」については認めていただいたということをお願いしたい。

「3 文化会館あり方検討にあたっての課題」 意見等なし

「4 文化会館整備基本計画における整備案について」 意見等なし

委員長：「5 文化会館の整備候補の調査結果」について、意見をお願いしたい。

委員：5ページ目の整備候補選定で、「エキサイト広場、小山小学校、青少年教育センター、V I O」の4つは記憶にないし、これまでの資料にもない。

事務局：ここに記載している「エキサイト広場、小山小学校、青少年教育センター、V I O」については、国庫補助の対象地区外になっているので、委員会にあげる前に事務局で削除した。この記載では、第1回あり方検討委員会において最初に候補として挙げたことになってしまうので削除する。

委員長：あり方検討委員会の中で検討したものを記載するということであれば、「エキサイト広場、小山小学校、青少年教育センター、V I O」は削除してよいか。

【委員承認】

委員長：6の前に13ページの「7 資料」について進めていきたい。何かご意見があればお願いしたい。

委員長：16ページの第6回の日付は抜いてあるが、今日の日付が入るということでよいか。

事務局：そうである。

委員：「5 文化会館の整備候補の調査結果」について、追加で質問したい。10ページの「(5) 現文化会館の耐震補強及び長寿命化の検討について」、前回の委員会で耐震補強及び長寿命化のチャート資料を見せていただいたが、紙ではその資料をもらえないのか。耐震補強

と長寿命化を試算した資料をいただきたい。

委員長：記載内容を判断するために必要ということか。

委員：内容が正確かどうか分からない。記憶では、耐震補強だけで約6億円と言っていたと思う。長寿命化すると十数億円という数字が頭に残っている。

事務局：耐震補強と長寿命化を全て行くと、概算事業費として16億5千万円程であった。必要最低限のものとして、耐震診断調査、耐震補強計画、耐震補強、空調設備改修、特定天井改修、それと設計監理を含めて、約5億6千万円という説明を行った。この資料でよいのか。

委員：大事なことなので、委員にコピーして渡してはどうか。それを見て検討させてほしい。

事務局：承知した。

委員：報告書のまとめにおいて、お金が掛かってもいいので、委員会で進めていくという話であれば、この資料は必要である。また、この委員会はお金ありきの話で進んでいる。先ほどの「2の①②」の目標に近づけるということでこの委員会が頑張っている。少々お金が掛かってもやるのかどうかということや、市長がいきなり踏みとどまりますと言った事はどこに記載しているのか。方向転換したことを記載しないとおかしいのではないのか。委員会の流れとして、最初は建て替えも含めて、小さくして増築するという考え方ができたが、いきなり代替案にとんだ。代替案が出た後に、耐震補強について検討することになったと認識している。大事なところが抜けているのではないのか。最初の20億円が16億円になるのであればやれるのではないのかという考えもあるので、話を戻させていただいた。

事務局：当時の基本計画整備案が承認されなかった時点で文化会館はお金の話になっている。規模を縮小し、面積も大幅に減らし、客席数も400席ということでコンパクトにした。それでも、今の文化会館の建て替えの総事業費が約27億円で、国庫補助が60%となった場合には、その当時計画していた整備費における市負担額を超えることになる。今後も物価上昇、人件費上昇が続くという状況の中で、これだけのお金は掛けられないという状態である。

副委員長：経過についての記載を言っている。お金のことや市長がいきなり新築を踏みとどまったことがどこに書いているのかと聞いている。

事務局：9ページの(3)のところで、4案の事業費が市にとって大きな費用負担になるという結果がでたので、市からこの財政負担を考慮した代替案を出し、それに加えて皆さんに検討していただいたという流れで記載している。

副委員長：第3回委員会の段階で、我々は結とびあの案で22億円と聞いている。それを市の財政負担がどれくらいまでならできて、22億円をどこまで減らすと実施できるのかという話を次の第4回委員会ですと思っていた。例えば、本体工事で10億円、施設整備で7億円、電気工事で5億円掛かり、全部で22億円掛かるので、これをどれだけ削れば、例えば20億円になるので、これだったらできるというような話になっていくと思っていた。途中で市長が方向転換したから、それを報告書に記載しなければならないと言っているのである。

委員：大事な部分である。第3回委員会までやってきたことを大方向転換した。市が提案した代替案を完全に市主導でこうしましょうということになった。これは委員会から出た話ではない。委員から、代替案はやめて耐震補強したらどうかという案がでたのであれば、それ

を尊重すべきではないか。

委員：今検討しているのは、12ページの方向性の前の途中経過の検討である。細かい点については書き方があると思うが、委員会から外れた書き方をしてはいけない。しかし、市長の言葉を入れて書くという極端なことは控えるべきだと思う。耐震については、前回の在り方検討委員会（今回のあり方検討委員会の前の委員会）で駄目という話になったと思っている。自分は前回は知らないが、この「あり方」という言葉自体がおかしいと思いながら今日まできている。毎回、同じような形で、それぞれの委員が同じことを何回も言っており、話が進んでいないというところが正直なところである。経過については、正確に記載する必要があるし、どこまで踏み込んで書くかについては委員長も含めて事務局がよく検討していただいて、先ほど委員の言われるように要の部分については、具体的に書く必要がある。最初のあり方自体は、2ページに書いてある基本的な考え方がこれに集約されており、これは前回の在り方検討委員会ですでに決まっている。今回のあり方検討委員会が何を検討するのかが最初から不思議だった。最初、議会がなぜ否決し、何が問題だったのかがよく分からなかった。事業費が30億円掛かるから、10億円ならいいですよと具体的なことを言われていたのかなど、はっきりと聞いていない。その中で、色々と検討しているから、最初は建設ありきで進んでいた。お金のことは心配していなかったし、そういう問題も出ていなかった。ある程度抑えればできるという中で進めてきた。あり方検討委員会の中でお金の心配をしないといけないのかという意見もでた。これは、建てるか建てないかという話になったら、当然お金ありきである。途中から予算的な事が具体的に出てきたということは、その段階で事務局が我々に方向性を強く説明すべきだったと思う。同じような意見を毎回聞いている。どこで意見を言っているのか、言っても聞いてもらえるのかということになっている。市長が議会で発言した以前から、予算については厳しいということを事務局は言っていた。難しいということをもっと強く匂わせるべきだったと思う。現在も賛成・反対といった意見があり、推進派もあり、署名活動までしている。この段階において、何をこの委員会として結論として出すのか。経過は当然、正確に書く必要があるが、最後の12ページをどういう書き方をして委員会の結論をだすかの1点しかないと思っている。経過は、前回の在り方検討委員会から委員になっている方もいるし、自分は今回からなので、前回のことを言われるとよく分からない中で、どう議論を持っていこうとしているかが分からないというのが正直なところである。個人的に言えば、予算がない中での議論をするのか、それを度外視して、理想論で結論を出してここに書くのかに集約されていると思う。その辺について、もう少し道筋を見極めながら話を持っていくと話がしやすい。正確に報告書を書かないといけないし、肝心なことは書くのは当然だが、最後の12ページの方向性に集約されるのではないかと思う。

委員：今の意見と同じ意見である。市長が議会で建設を踏みとどまると言った段階で、この委員会は一旦、収束させるべきだったと思う。建設なしでどのようなあり方にするのかという別の委員会を立ち上げて検討すべきだったと思う。予算がこれぐらいの規模で、何とか建てたいという提案が全くないところから始まり、否定されたからこう削るという話になった。我々にとって、市はどれだけの財産があり、どれぐらい出せるかという事が全く分からない。そして、財政が厳しいから建てられないとなった。何のために委員が集まって、色々な施設の見学に行って何をやってきたのか。本当に無駄になった。市側の財政事情に

より、建設に向けて検討してきた委員会をクローズして、今度は、代替案をどうしようという方向に切り換えなければならなかった。一直線で走っていたものを財政が厳しいからと言って途中から右折して、この委員会で結論を出せというのは難しい。その中でどうしたらいいかと言うと、今までの市長の発言も含めて、市がこういうことから検討委員会でこういう結論につなげていくようになったという事にしないと、我々も今までの時間が無駄なる。

副委員長：2人の意見に同感である。今、問題になるのは、12ページの「6 文化会館のあり方と方向性について」のところである。前回の委員会で自分は、結とびあの今年度の使用状況、大野市文化会館の使用状況、学びの里「めいりん」の使用状況の資料を出した。6番の中に「既存施設を活用して今後文化活動を続けていく」とあるが、既存施設はめいりんしか考えられない。利用者は結とびあの多目的ホールは使えないと言っている。さらにめいりんについて調べたので、資料をお渡ししたい。

委員長：5ページ以降に記載の文化会館の整備候補の調査結果というところは、きちんと流れを示すことが大事であり、そのあたりを事務局と相談をしながら、決めていきたい。

委員長：流れを正確に記載する点について、5ページから11ページでご意見があればお願いしたい。

【意見なし】

委員長：12ページ「6 文化会館のあり方と方向性について」意見があればお願いしたい。

副委員長：以前資料を渡した際に、めいりんの使用状況については、有終西小学校の行事等に影響を受けるという説明をさせていただいた。前回の資料では、使用について細かく記載してあったが、斜線の部分がよく分からなかったと思う。今回の資料で黒塗りにしている部分が学校行事で使用している部分である。既存施設を利用しながら文化活動を行うといっても、殆どが真っ黒である。学校が開いている間は、当然授業があるので、講堂や音楽室は使用できない。土日は、前回の資料と同じだが、学校行事が入ったり、諸団体が使っていたりで黒塗りになっている。5月のゴールデンウィークの3連休や夏休み期間中の学校の授業がない時しか空いていない。先日、今年4月から9月までの講堂や体育館等の利用調整会議があった。今年の8月1日から28日までランチルーム、体育館、講堂、すべて利用できない。理由は分からないが、8月でもこのような状態である。今年度の文化会館利用状況も前回資料を渡した。これだけの団体が文化会館を利用している。6の「文化活動の発表の場を確保するために、既存施設を活用する」というのは、どこを想定しているのかと言いたい。加えて、有終西小学校の講堂は、教育施設である。もともと、文化を発表する場の目的として市が建てた施設ではない。めいりんは講演会や式典、学校の文化的発表等に使うことを目的として建てられている。設備、音響、照明にしても基本的な設備しかない。目的が違うので、文化会館と構造が違う。そこで文化的な発表をするといっても難しい。文化施設は、地域の文化活動をしている人を支援するための公共施設である。コンサートや演劇、舞踊やバレエの発表を目的として建てられるものであるから、当然それに必要な音響や照明、バックヤード、客席も見やすい客席になっている。めいりんと文化会館を一緒にするのは難しい話である。また、資料のとおり予定がいっぱいである。耐震の話は前回の在り方検討委員会で話したが、できないという話ではない。あの時は、新築ありきの話だった。当時の市長は、千人規模の施設を建てて外から人を呼び寄せると言ってい

た。今の段階となつては新築も建てられないし、既存施設の活用も難しい。ぜひ、耐震補強をもう一度検討していただきたい。文化活動をしている人はみんなネガティブになっている。配った資料の最後に、大野高校の生徒の意見がある。他にも4～5ページほどあるが、大体同じようなことが書いてある。こんなに広くていい文化会館はないので、絶対になくさないでほしいということを高校生は切実に訴えている。最初は20億円、22億円と言っていたものが、耐震補強は16億円で、金額的には下がってきている。ぜひ再検討していただきたい。今が分岐点だと思う。ここはしっかりと考えないといけない。この「6」の方向性については反対する。

委員長：論点が2つあり、1つは初めに提示した既存施設ではなかなか空かないので既存施設では活用できないのではないかと、もう1つは、現文化会館の耐震補強をしてほしいということである。耐震補強についての皆様の考えを聞かせていただきたいが、先に事務局の説明をお願いします。

事務局：耐震補強について補足させていただく。平成21年度の消費税5%の時点では、耐震補強が2億2千万円掛かり、全体工事にすると5億9千万円程掛かる試算になっている。現時点で、耐震補強して長寿命化の改修工事を入れると、設計監理も含めて16億円以上掛かる。使える年数は、耐震補強だけして約10年、長寿命化の改修までして約20年となる。20年の施設を16億円掛けて改修するののかということが一つある。耐震改修で16億円掛かる施設は、費用対効果を考えるとなかなか難しい。今回は、金額のことを含めてこういった判断に至った。めいりんの予約状況については、例えば、金曜日の夜にいつも太極拳の団体がステージを使っているが、この団体は調整により移動していただくことが可能である。また、市のイベントが入っているのであれば、他の施設の利用を見ながら、別の施設を使うことができる。文化会館で行われているイベントのうち、演奏や発表、歌等の文化活動であれば、主にめいりんを使つていただくことになると思うが、それ以外の講演会や文化活動以外のイベントは、結とぴあ多目的ホールや平蔵、学校の体育館、各公民館、結とぴあ305・306号室等、調整しながら行っていく必要があると考えている。また、以前、新たな文化会館の整備は27億円と申し上げたが、5年後はその額では済まない想定しており、耐震補強と長寿命化の工事も今の見込み額では済まないと危惧している。そうすると皆様にご協力いただき、調整して色々な場所で実施するのが大事だと考えている。

副委員長：事務局から耐震の話があったが、他市町も文化施設を耐震している。12月14日の福井新聞に小浜市の記事が出ていた。小浜市も複合施設を建ててほしいということで署名活動をし、かなりの署名人数を集めた。前市長は前向きに検討するという話だったが、市長が変わり、小浜市文化会館築後53年、来年度から2年間工事を行って耐震補強し、長寿命化を図るということになった。勝山市も市長の方針で、市民の文化活動の発表の場として文化会館をなくすことはできないということで耐震補強を行っている。武生市、鯖江市、坂井市もやっている。県内の市の中で唯一あわら市はやめた。今年は県文化協会芸能祭をあわら市で行うことになっているが、あわら市は文化会館がないのでグランディア芳泉でやることになっている。県内の各市町から集まって行う祭典をグランディア芳泉で行うということで、あわら市も苦慮していると思う。大野市文化協会からも出演することになっているが、参加には皆ネガティブになっている。事務局は他の場所であるというが、使用料が

高い。また、部屋がどこか取ればいいという問題ではない。使用料や会場の広さ、場所もある。駐車場の問題もある。大野市文化会館は場所がいい。駐車場はあるし、周りは公園で音を出しても迷惑にならない。結とびあだと、音を出すと隣で会議ができない。使用料も高い。めいりんを利用している太極拳にどこか行ってもらえばいいというような簡単な問題ではない。また、めいりん講堂と文化会館では全く性能が違う。例えば、市民吹奏楽団は500人以上の客を集めてやるし、自分の合唱も400人集めてやりたいと思っている。めいりんは定員オーバーでできない。音響も悪いし、反響板もないし、ひな壇もないし、ステージも奥行きがない。性格が違う会場でやろうと言われても条件があるので難しい。耐震補強で乗り越えられるのであれば、それしか考えられない。高校生も中学生も発表したいが、場所がないといっている。めいりんは狭いし、バックヤードもない。皆さんは発表だけを観ているかもしれないが、バックヤードはてんてこ舞いである。着替えの人や出演待ちの人、音響の人や運営の人で、舞台裏は本当に大変なことやっている。既存施設を活用するのは難しいと思う。この案には反対する。

委員長：耐震診断について、資料13ページで、現文化会館はE判定を受けているとある。E判定を受けて耐震改修して文化会館を再活用している事例はあまりない。おそらく小浜市は、何判定が分からないが、CとかDぐらいで、そこまでお金が掛からないところでは活用ができると思う。大野市は平成20年度に耐震診断を実施しており、今よくなっていると思えない。その意味では、事務局が出した案はある程度妥当なのではないかと思う。6番のところで「耐震補強しない」とは書いてはいない。高額になることが見込まれるという事実を記載している。これについては、個人的にはこの書き方が妥当だと思う。文化会館がない状態で既存施設をうまく活用する際は、事務局側からも調整してもらうという話があったが、そのあたりは利用団体等と市が積極的にやりとりをしながら、文化会館で行われていた内容がきちんと担保できるように双方に努力していかなければならない。その辺りは、「6」にもう少し強く記載してもいいのではないかと思う。

委員：耐震補強について、事務局の説明では16億円を掛けて、20年持つぐらいのとのことである。一年間でいうと8千万円となる。14ページに大ホールの利用回数が記載されており、令和5年度32回で、このうち3回は自分の園が絡んでいるので、30回前後の利用になると思う。8千万円を30回で割ると、1回借りるごとにランニングコストとは別に266万円が経費として掛かることになる。自分達は3回程使っていて3回分だと8百万円ぐらいになるが、8百万円を掛けてまで耐震補強してくださいと言うつもりは全くない。そのくらいの経費がかかるのであれば、工夫をしながら他の施設でやり、貴重な財源は必要ところに回していくのがいいと思う。色々な考え方もあると思うが、当初から自分は財政的に困難ではないかと思っていた。計算上、1回の使用に266万円掛かるのを良しとする考え方もあるが、それはどうかと思う。年間200回の利用があるというのであれば、もう少し使用料は下がってくるが、これから人口も減っていく中で、現在の件数も30回なので、それでもやってくださいという元気はない。

委員：今の意見に反論するわけではないが、30回は本番の日だけである。準備やりハーサル、後片付けでも使っている。自分の団体も、1回の公演で5日間借りている。単純に割ってもらっても困る。文化会館の大ホールだけでなく、会議をしたり、集会をしたり、地元の夏祭りの準備に使ったり、コミュニティの場でもある。単純に大ホールだけで計算するの

はどうかと思う。耐震補強の件は、再調査及び予算の検討をしていただければいいが、1千百万円しかかからない。新築・増築の調査票を作るのに1千万円かかっている。耐震補強の調査に1千百万円であれば、調査すればいいのではないか。それで投げ掛けて、議会や市がどう判断するのかという報告書にしてもらえればいいのではないか。文化会館は、地域の人が集まる場所であるし、練習にも使用している。簡単に既存施設でという提案をされても、道具を運んでいかなければならない。また、めいりんでやるとしても、結ステーションの駐車場が有料になると聞いている。練習も本番も有料の駐車場を利用しないといけない。簡単に既存施設の利用というが、齟齬があるように感じる。この前会場がなくて、中学生高校生と一緒に演奏した際は、ステージ横の通路に出番待ちの人がいた。あれは、消防法違反である。300人しか椅子は入れてはいけない。違反を堂々とやっている。なぜこうなったかと言うと、選挙のため選挙管理委員会が占拠しており、リハーサル室は使えないし、音出しも駄目だと言われた。また、ホールで練習したとしても音が漏れるので音楽室や体育館が使えない。自分たちの活動を考えると、それは不合理だと思う。耐震補強については再度調査及び検討ぐらいの言葉を入れてもいいのではないと思う。調査費1千百万円ぐらいならやればいいと思う。第4回の報告書の作成に1千万円掛けたのであれば、できるのではないと思う。そうすれば、地域の避難所としても使える。利用者の安全確保が困難であると記載しているが、判定は平成20年度に受けて15、16年経っている。我々はずっと文化会館を使っているが、地震があつたら死ぬという中でやっていた。行政が、今、安全確保という言葉を使うのがおかしいと思う。

委員 長：事務局の説明では、耐震補強及び長寿命化については、高額であり20年間しか延長できないということであった。事務局の補足があればお願いしたい。

事務局：補足として、何とか耐震補強できないかと考え、いくつか他市町の調査をした。まず大野市の文化会館は昭和41年竣工である。福井市文化会館は昭和43年竣工で52年使って休館した。あわら市文化会館は昭和45年竣工で52年使って、令和4年度末に休館している。勝山市民会館は昭和42年竣工で、44年使った段階で耐震診断の結果がD判定だったので、早い段階で耐震補強を実施している。担当者に確認したところ、令和6年度の段階でそこから10年ぐらいいは使うと言っていた。越前市文化会館は昭和55年竣工で35年使った段階で耐震診断がE判定と言われており、さらに確認すると、施設のごく一部の耐震性が極端に低く、それに引っ張られて全体がE判定という状態だった。その部分さえしっかり強化すれば、十分耐震性が確保できるということで、使用35年の段階で耐震補強を実施している。これは早い段階で行っている。鯖江市は昭和54年竣工で、41年使った段階で耐震診断がC判定で耐震補強している。小浜市は昭和46年竣工で耐震診断はC判定だが、新築は難しいということで、耐震補強に踏み切ったという記事は確認している。他市を確認すると、早い段階で耐震補強に踏み切っている。大野市は58年経っており、時期を逸していると考えている。

委員 長：「6 文化会館のあり方と方向性について」耐震補強及び長寿命化や既存施設の活用、お金の話の3点について、まだコメントされていない方からお願いしたい。

委員：意見を聞いた中で、耐震補強の意見に自分は同感である。新しい文化会館が一番望ましいが、費用対効果という意見もある。耐震診断をしたのが、今から15、16年前であり、かなり前である。現在、技術が進歩をしており、当時できなかった事が今まではできるよ

うになっているというのが様々な業界でも現実としてある。1千百万円掛けてもやる価値はあるのではないかと思う。文化会館があと20年使えるのであれば万々歳ではないかと思う。もちろん新しい施設を建てればもっと長い間使えるが、落としどころとしては、一番いい形になると思う。また、箱があれば、今後、利用者や利用回数も増えてくるのではないかと思う。建物が一つなくなったら譲り合いをすればと言うが、我慢しないといけないということも出てくる。いい場所にいい空間があるので、ぜひ長寿命化に賭けたいと思う。

委員：最後の記載については、耐震や新築等いろいろな案を出せばいいと思うが、根本的に前回の在り方検討委員会のときには、予算のことについては一切制限がなかった。今回の在り方検討委員会になったら急に厳しくなっているということ言われた。その考え方からいけば、今回の委員会としては、予算のことをしっかり考えながら、その上で意見を出す必要がある。前回の在り方検討委員会の議論の内容が議会を通っていたら建てていたわけである。今は、予算の事について言われており、それをしっかり考えた上で我慢も含めた上で検討となる。新しい建物がいいし、大きいほうがいいに決まっている。最初は、もっと大きい建物にしたらどうかという意見もあった。今は予算のことで切羽詰まっているという状況である。我々は市民に説明する義務があり、予算の事を考えずに議論したとは言えない。どう決めたのかと聞かれたら、それなりの返答をしないといけない。委員と言われても自分は文化活動をあまり行っておらず、活動している委員との考え方に違いがあるのは当たり前であるが、予算があれば、いい建物の方がいいのは賛成である。そこに予算の制限があると、言いたいことも8割、7割、6割に抑えながら発言しないと前に進めない。事務局は第4回の委員会で初めて財政の中長期計画を出したが、予算の話もせずに建物を建てる議論をしていたのかという話である。我々は市民に説明する責任もあり、折衷案もある程度出しながら、委員会としてまとめていく必要がある。耐震は、平成21年度に一度結論が出ている中で、技術が進んでいい方法があるのか。年数が経過し、余計にお金が掛かるようなこともあるかもしれない。16億円掛けても20年である。10年という年月はすぐに経過する。委員会では最終的な結論を出すのであるのであれば、いろんな案を出せばいい。案としては、一つ一つに固執しなくてもいいと思う。ここに書いてある「当初は文化会館を整備することは委員の総意でした」というのは、総意ではない。当初から反対論もあった。こんな大きい建物はどうかという意見もあった。「既存施設を活用していくことが必要とあると考えます」と決めてしまうと、これも異論があると思う。この辺りはまとめていく必要があると思う。割り切って考えないといつまでも平行線である。まとめる事務局も戸惑う。2案でも3案でもいいと思うが、意見を出してはどうかと思う。

委員長：今の話は「6 文化会館のあり方と方向性」のところにいくつか案を記載するという提案でよいのか。

委員：そうである。

委員：先ほどもあったが、耐震の最新技術では、コンクリートでも例えばグラスファイバーを注入する等のやり方があり、当時はなかった工法ができるのではないかと思う。再度、耐震診断していただくことを委員会としての結論としなければ、他の施設を使うのは、先ほど意見もあったように今利用している団体から苦情が来る。割り込んでいくわけだからそうなる。料金は高くなるし、体育館にしても結とぴあにしても、スポーツ施設を全部3日間

使うと言ったら、他の団体から苦情は来るし、委員会でこのような結論を出したら、我々にも苦情がくる。そこで、再度耐震診断をしていただき、どうしても駄目ならまた考えればいいのではないか。

委員：10ページの(4)で、「結とびあ多目的ホール改修案による整備の可否は、この結果を踏まえて検討する必要がある」と記載しているが、記憶では、多目的ホール改修については誰も賛成しなかったと思う。なぜ検討する必要があると記載されているのか確認したい。また、12ページの「6 文化会館のあり方と方向性について」のところで、「以上のことから、総合的に考慮した結果、本委員会としては、市民が行う文化活動の発表の場を確保するためには、市内の既存施設を活用していくことが必要であると考えます」の本委員会という主語は全く違う。これは、市若しくは市長としてではないかと思う。市内の既存施設を活用していくことが必要と考えるとの発言は、委員長の意見として出たと思うが、委員会全体の意見として出た記憶は一切ない。なぜこのような書き方で、このような主語になったのかを確認したい。また、個人的な意見だが、最初の段落で「本委員会では、大野市の将来を担う子どもたちのため」の「大野市の将来を担う子どもたちのため」はぜひ削除していただきたい。子どもに関わる仕事をずっとしているが、何か綺麗ごとにしかならない文章である。将来を担う子どものことを考えての施策だと思えない。こういう綺麗ごとの文章はなしで、事実だけをしっかりと記載していただきたい。ここは、意見をぶつけ合う場ではなく、よりよいものを寄り添い合いながら、みんなでどう向かっていくとよいかという委員会なので、調和のある委員会として落としどころを見つけていきたいと思う。

事務局：10ページは経過の段階である。最後のまとめとして12ページの4段目で「結とびあ多目的ホールの改修案が提案されましたが、整備を必要とする利用者は少数になると見込まれることや改修案による整備では利用者が求める機能を確保することは難しいと考えられます」と結論を出している。

委員長：これであれば、10ページはこのままでもよいかな。

委員：承知した。

委員長：子どもという文言を入れるときれい事になるというのは確かにそうかもしれないが、子どもと文化振興に携わっている人たちのために協議を重ねてきたということは、初めの方は言及していなかったか。

事務局：委員会の中で、今活動している人たちもそうだが将来の子どもたちのためにもという発言が何度かあった。人口減少が進んでいく中においても子どもたちのためにもということで記載させていただいた。

副委員長：それならば耐震補強してもらわないといけない。子どもたちのために文化会館を壊しますということであれば、言っていることが違う。

事務局：それについては、先ほども申し上げたが、耐震補強しても20年持つかどうか分からない。また、16億円では終わらない可能性もある。それこそ負の遺産になってしまうと考えられる。

副委員長：報告書の6の3から4行目も引つかかる。「既存施設に文化活動で、最小限必要な軽微な補修、備品の導入」とある。これを文化振興の立場の人が考えたのかと思うと涙が出る。最初の会議でも、最小限のコンパクトなという言葉がある。市にも申ししているが、地域文化課の皆さんが自分達の唯一の味方である。文化振興を所管としている皆さんと一緒に大

野市を何とか盛り上げたいと考えている。既存施設の活用は問題があるということを調べていただきたい。今回、この資料を作りながら、なぜ自分がこんなことをしなければならぬのかと思ひながら作った。文化会館の利用状況を書き写して、資料を作った。めいりんの利用状況の資料を黒塗りにするのに8時間も掛かっている。地域文化課が既存施設を利用できるのかどうかを実際に確認していただき、提示していただくのが本来である。なぜ、自分が代わりにやっているのかという気持ちでやらせてもらった。また、指揮者の齊藤一郎さんから電話があった。彼は大野に帰ってきて、大野を拠点にして動くということであり、文化会館がどうなるかという電話だった。彼もショックを受ける。松谷親子も頑張っており、子どもはアメリカへ留学して育っている。大野市の小中高校を卒業して、皆さん大野を盛り上げるために頑張っている。また、谷さんも高校で声楽をしている。市外に住んでいる委員は細かいところは分からないと思うが、本当にみんな頑張っている。音楽だけでなく、ダンスもバレエも演劇も舞踊も、やっている人は本当に頑張っている。文化を軽視するようなところには人は来ない。16億円も掛けていいのかという意見に反発する訳ではないが、国も補助してくれる。スクラップアンドビルドは時代遅れである。現施設をなるべく長寿命化して使う。調べる限り、補助金は7つから8つある。また、大野市は地方債も出せる。7億円の地方交付税が戻ってくる。だから16億円掛けても、大野市の負担は、2億円や3億円ぐらいになる。それで文化会館が生き返るのであれば、みんな喜ぶ。市民は耐震をしてくれと言っている。署名活動をしているときに、頑張ってくれとお金を持ってきた市民もいる。そういう人もたくさんいる。こういう意見も踏まえると、落としどころは耐震しかないと思う。自分が無理を言っているかと皆さんに訴えたい。ここは大野市文化会館をどうするかを考える委員会なので、お金のことはもちろん頭に入れるが、文化会館をどうするかを考える委員会である。市の提案してきた案がいいということであればそれでいいが、この提案では大野市が沈没していく。ますます勝山市と差が開く。前に勝山市民会館を使うということも言われたが、勝山市民会館を使うと市外の人の使用料は高い。そこに大野市が助成をだすのか。大野市の税金を勝山に納めるのか。変である。市外で行う団体に助成するという事は、税金を他市に持っていくということである。大野市のプライドはないのかと言いたい。

委員：先ほどの「大野市の将来を担う子どもたちのために」についてだが、事務局としては将来を担う子どもたちのために借金を残さないという意味でこの文言が入っているのか。

事務局：借金は考えてない。本当に子どもたちのためによりよいものが残せたらという入り方である。

委員：先ほどの耐震補強の国の補助金について、事業費見込みの16億円には補助金額は加味されていないのか。

事務局：16億円は事業費全体である。

委員：本当に実行するのであれば、市の負担額は16億円から差し引いた額となるのか。

事務局：そのとおりである。

委員：先ほど意見があったとおり、耐震補強については新しい技術があると思う。15年以上前の耐震補強計画の文言の中に、このようなことも入れたうえで、再度、耐震補強について検討をお願いしたいというような文言は入れられないか。実際に耐震補強計画を立てた上で、やっぱりどうしても金額が高いということであれば、市の判断でできないとするか、

次の委員会で検討する必要があると考える。委員の皆さんの意見を聞くと、「耐震補強は難しい」という結論をここに載せるのはちょっと難しいと思っている。

委員：自分も同じように考えている。挙げてきた候補のどれもが合点いかないと仮定すると、耐震補強の部分をもう一度考えることが落としどころではないかと思う。それが、今回のあり方検討委員会のほぼ総意に近い状態ではないかと思う。耐震補強16億円で10年から20年で、通常の新築ホールでも改修が掛かるのが大体10年後である。通常の新築大ホールでも30年で大改修する。照明設備、音響設備はさらに進化が激しいので、細かく補填をしたり、できるところをしたりする。求めるところまでできないにしても、ある程度催し物の度にスポット的に対応できる設備をコンパクトに構えている。例えば、演劇、音楽演奏会、ダンス関係等、ある程度のものが許容できるスペースやハード面を構えるというイメージである。耐震補強の仕方は今どういうものがあるのか分からないが、鉄骨・鉄筋コンクリートや最新の強化ガラスとかがあるのではないか。また、福井新聞社のように反響盤をカーテンで対応して、演奏会、歌の発表会とかりサイタルもできる体制を整えているので、もう一度模索する必要もあると思う。

委員：自分も「6 文化会館のあり方と方向性について」の「市内の既存施設を活用していくことが必要である」という部分が気になっている。実際、自分もめいりんやそのような会場の予約をするが、ほとんど自分の希望に合うことはない。先ほど意見があったように、取り合いが厳しい状況である。めいりんは今から改修の予定があるということで、ある程度改善されるかなという希望は持っているが、既存施設を利用していくという事をあり方検討委員会で言うのはおかしいと強く感じている。「これまで行われてきた市民文化活動が今後も末永く継続できる」という言葉はとても好きで、高齢化が進んで人生100年時代と言われており、70代80代で活躍されている方もたくさんいる。そういう方が、心豊かに穏やかに文化施設を利用しながらできることを望む。その落としどころが耐震で、お金が掛かってでもしてほしい。文化施設は必ず欲しい。自分がそのような立場にいる以上、新しいものを建てる以外ないと最初から言っているし、既存施設の利用は難しいというのが意見である。

委員長：12ページのところについて整理すると、初めの「将来を担う子どもたちのため」は削除したほうがいいか。

委員：質が落ちる気がする。子ども真ん中ではなく、予算真ん中である。これを入れてしまうと何か違うように感じる。予算真ん中文化会館あり方検討委員会のような感じで軽くなる気がしている。文言としては嫌いではないがここには記載してほしくない。

委員長：そこは配慮したい。2段落目のところは「費用を考慮しなくてもよければ」新しい文化会館を整備するということは総意だったと思うので、この部分はこのままでいいと思う。3、4段落目も大丈夫である。5段落目の耐震補強については、個人的にも色々思うところがあり、お金も掛かる部分でもある。技術的に発展はしているが、よりお金が掛かる方向になると思う。耐震補強でどれくらいお金が掛かり、補助金がどれくらいの見込みなのかという事が整理されていない。やるかどうかは市の判断になるが、例えば、あり方検討委員会では、文化会館がどういう可能性があるのか確認してほしいという記載はできると思う。この辺りは、事務局と相談しながら詰めさせていただきたい。6段落目の「最低限必要な軽微な補修」の部分は、言葉を変えて配慮する必要があると思う。

また、支援についてもどういう支援が必要かという部分も書けるのであればもう少し詳しく書けるとよい。これで委員会を終わりというのは難しいので、もう一回で整理するという流れでよい。「5 文化会館の整備候補の調査結果」の流れで違和感があるという委員もいたので、その内容確認と、「6 文化会館のあり方と方向性について」について、どういう主張を委員会でするかももう一度整理する必要がある。

副委員長：既存施設だけで文化活動をやるのは無理であるという事は、大体総意ではないかと思う。文化会館を存続するための調査を前向きに検討するというのが、この委員会の総意ではないかと感じた。

委員：先ほども言ったが、文化会館を残すことは地域のコミュニティの場所を残すという一文を入れてほしい。今使っている地域の人のため、使えるかどうか分からないが避難所にもなるので、レガシーを残していくというような言葉を付け加えていただきたい。

委員長：それは、現文化会館のことでよい。

委員：そうである。

委員：「既存の施設を活用していくことが必要であると考えます」という文書だが、必要であるというより、財政的なことを考えた場合には、新しいものを作ることが無理なので、既存のものを利用していかざるを得ませんということである。積極的な賛成ではなく、財政的なこと考えればこれしかないということである。消極的な賛成というのはおかしいが、すごくいい考えであると思っているわけではない。財政面を考えると、こうせざるを得ないという考え方である。

委員長：そのあたりのニュアンスは分かるようにした方がいいと思う。次回に持ち越しとし、第7回委員会を開催するという事でよい。

事務局：最後に耐震の話が出たが、事務局の立場で再度申し上げますと、耐震すると調査費等で1千百万円と見込んでいる。最新の技術は分からないが、やれば16億円ぐらい掛かり、20年使うだけである。果たして市民の理解が得られるかという事を考えると、既存施設をうまく利用している団体もいるので、財政難の中では致し方ないということを使っただき、必要な設備はできる範囲で整備していくということを事務局としては考えている。また、平成31年3月議会において、7千万円の基本設計費は認められたという話があったが、当時、附帯決議が出ていた。委員会の承認を得るまでは、執行しないということで行くつか条件が出たということである。

委員長：第7回で再度案を出していただき、既存施設の活用という部分で事務局から資料が出せるのであれば出していただきたい。それを受けて議論ができると思う。

4 その他

事務局：次回の第7回は、年度末までの間で日程調整させていただきたい。できれば早いうちにと考えている。皆さんに出席いただけるように調整させていただきたい。

5 閉会あいさつ

副委員長：大体の委員の総意が耐震ということで、意見が概ねまとまりそうである。前から話しているとおり、自分は11年間という非常に長い間文化会館を検討させていただいている。地域文化課の職員は、文化振興のために人を説得する立場であると思う。自分達の味方は地

域文化課の皆さんしかいない。ほとんどの委員が耐震しかないと言っている。耐震は難しい、市民が納得しないと言うが、市民を納得させるのが我々だと思う。文化会館はないと困る。ぜひ前向きに検討していただけることを心よりお願い申し上げたい。